

上山町神明 ともいきの里山

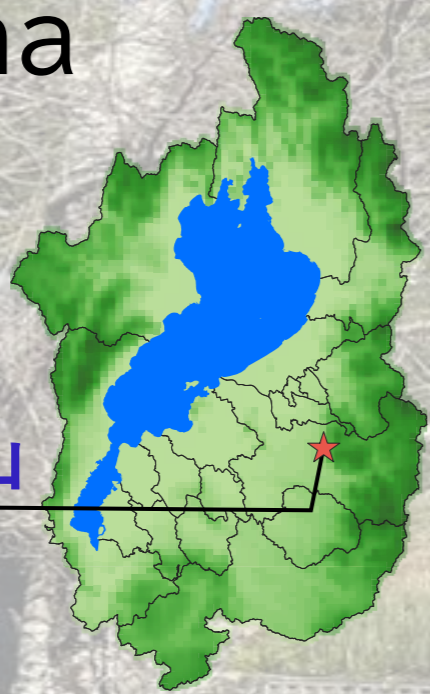
-上山町神明里山ともいきの会-

「生きとし生けるものすべて」の楽園をめざして

古刹百済寺の麓にふるさとの原風景を残す上山町。「いきもの」と「ひと」が、命ある仲間として共に生きていける里山を未来へ残していきます。

場所:滋賀県東近江市

面積: 4.19 ha



上山町神明ともいきの里山



サイト概要

湖東三山の古刹百済寺の麓にある60世帯あまりの上山町。2つのため池を含む神明(しんめい)と呼ばれる里山4.19ha。周辺は、古くは薪や食材、また農業に欠かせない水をもたらす母なる山でした。燃料革命やほ場整備によって、その役割はなくなりましたが、開発の手が及ばなかったことで、多くの希少な動植物が息づく場所となりました。地域の財産として次代に残すため、令和7年度に自然共生サイト認定を受けました。

地域等との連携

「上山町神明里山ともいきの会」は、地元上山町で山林や農地の維持保全に関わってきた住民有志が中心となり、長年、溜池や里山の生態調査をされている専門研究者の方々の支援も得て令和6年秋に組織しました。環境学習などで連携してきた地元の学校や幼稚園、農協など、これまでの地域とのつながりも大切にしながら、ひろく活動の主旨に賛同される皆さんとの連携を深めていきたいと考えています。

活動の内容

サイト内の動植物の生態については、専門の研究者によるルートセンサス法による目視調査や捕獲調査を基本にしていますが、地元の学校や園と連携して環境学習のフィールドとしても活用しています。サイト周辺の農地や山林は、地元自治会の農業団体組織と緊密に連携し、農林関係の支援策も活用しながら、中山間地の農地保全や獣害対策とも関連付けた活動を併せて進めています。



“自然共生サイト認定”のその次へ

戦国時代、この地を訪れたポルトガルの宣教師ルイス・フロイスは、自著「日本史」の中で、古くから「湖東の小叡」と呼ばれてきた古刹百済寺の寺内集落一帯の風景を **Paraíso na Terra**(地上の天国)と評してヨーロッパに紹介しました。

しかし、時代とともに(二次的)自然景観は少しずつ姿を変えつつあります。先人が自然の恵みを楽しみながら暮らしていたこの地域を守り、次代に引き継いでいくため、自然共生サイト認定は、私たちにとって新たな出発となります。ネイチャーポジティブのつながりが、滋賀から広がっていくことを願っています。



獣害対策や森林整備に参加してくれた若手市職員の皆さん

小学校、幼稚園との連携協定書と学校通信

生物多様性の状況

里山林にはハヤブサやハイタカ、サシバ等が飛来しています。またサイト内には、古く農業用水確保のためにつくられた「秦溜」と、「おわん池」という2つのため池が現存し、絶滅危惧種のカワバタモロコやナゴヤダルマガエルをはじめ、モリアオガエル、ツチガエル、ニホンイシガメなどが生息し、ジュンサイやフトヒルムシロ等の重要な種も確認されています。



おわん池 モリアオガエル

アガハライモリ

フトヒルムシロ

ツチガエル

カワバタモロコ

ジュンサイ

秦溜